


May 2024

ようこそ、持続的共発展教育研究  
センターの教育プログラムへ！  
-新しい学理、教育、そして人材を生み出す-  
Welcome to Education Program by  
“Education and Research Center for  
Sustainable Co-Development” (SusCoDe)  
-Generation of new scientific principle,  
education and human resources-

持続的共発展

検索 

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/>



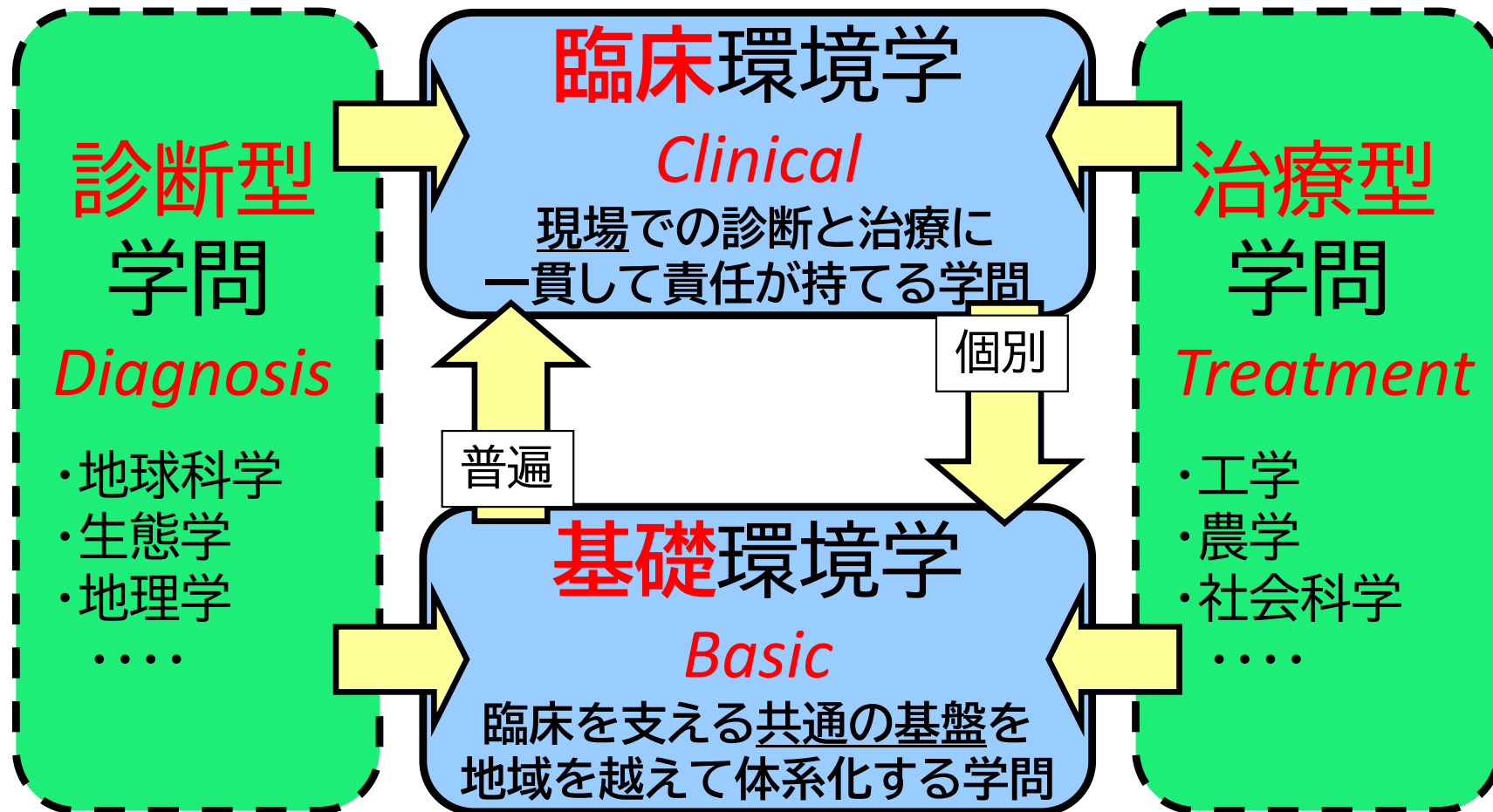
# 「科」の「学」だけでは環境問題に対応できない

## Miscellany of detailed academic disciplines cannot solve environmental issues.

- 環境問題 = 自分たちの周辺の問題 (の総合)  
The environment is a series of problems around ourselves.
  - 「環」: まわり、「境」: さかい
  - 様々な事象が分野横断で複雑に結びついている
  - 実験室やシミュレーションの結果がすぐ通用するわけではない
- 細分化された個別学問分野では視野が狭い  
Detailed discipline's perspective is narrow.
  - 固有の視点から鋭利な分析を提供できる場合も
  - しかし的を外れた視点になることも。分野間相反も
- 大学に閉じこもってではそれを実感できない  
We cannot feel it inside university.
  - その方が論文は書けても社会と乖離。環境学としてどうなのか

# 臨床環境学®と基礎環境学

## Clinical & Basic Environmental Studies

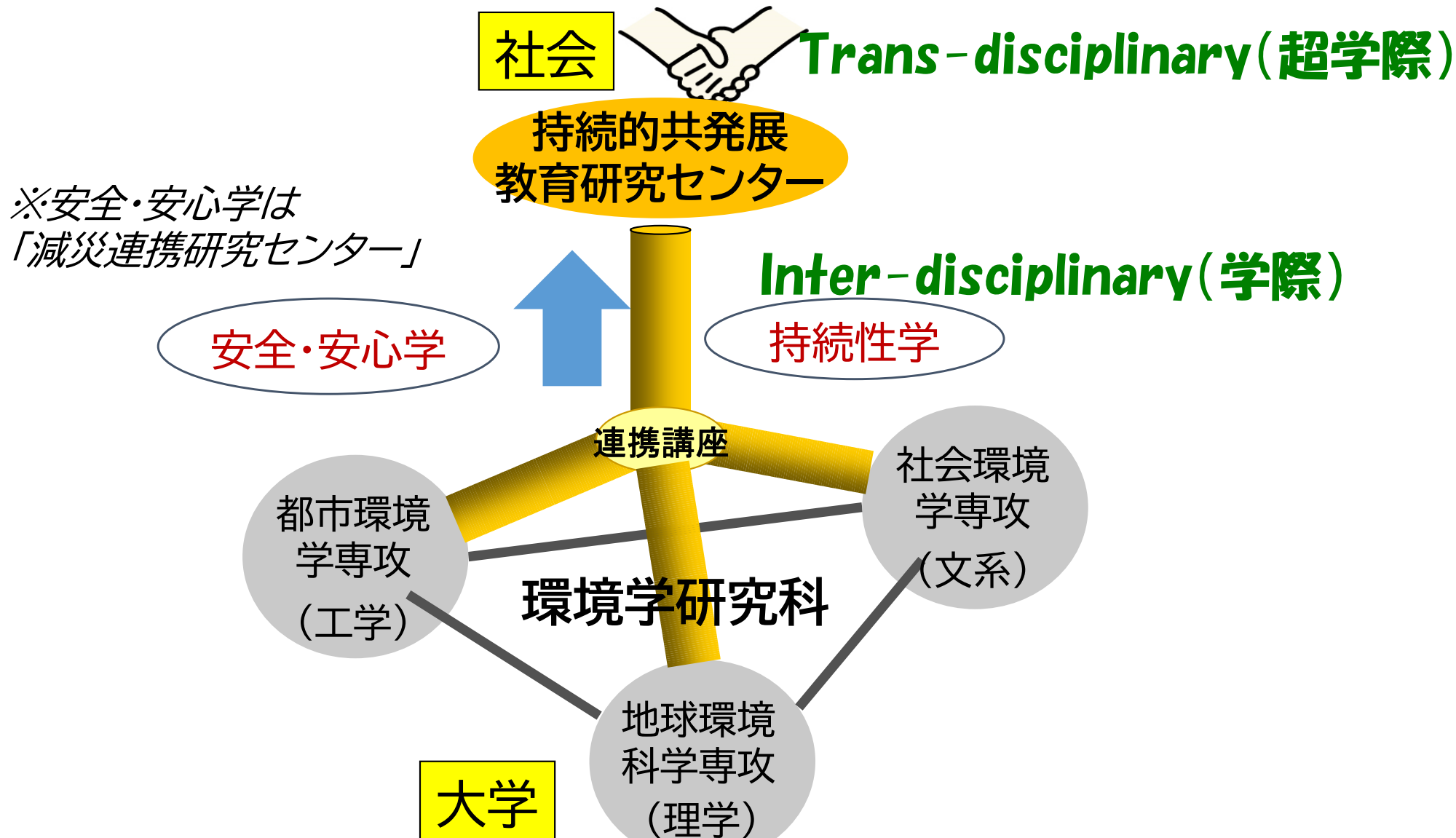


※「臨床環境学®」は、名古屋大学の登録商標です。

# 持続的共発展教育研究センターの位置づけ

- From triangle to tetrapod -

Positioning of "Education and Research Center for Sustainable Co-Development" (SusCoDe)



# 臨床環境学®コンサルティングファーム

-社会と大学研究者との「お見合い」の場-

## Consulting Firm for Clinical Environmental Studies

- 企業・行政、市民などの皆様の**ワンストップ相談窓口**！
- 地域と大学の共同研究・**協力活動を創り出す場**！
- 新たな環境人材の育成と**キャリア開発**の機会！

そのために  
大学内の横連携！



# 6 研究科連携ESDプログラム

Nagoya University Education for Sustainable Development Program by 6 Graduate Schools

<http://www.nuesd.env.nagoya-u.ac.jp/>

The logo features a dark green background with various white icons representing sustainability, such as a solar panel, bicycle, wind turbine, sun, globe, hands holding a globe, leaf, gear, and recycling symbol. The text is arranged as follows:

2024年度  
名古屋大学大学院  
6 研究科 連携

# ESD

プログラム Nagoya University  
Education for Sustainable Development Program

6 研究科連携  
Education for  
Sustainable  
Development  
プログラム

環境学  
国際開発  
生命農学  
工学  
経済学  
人文学

SD(持続可能な発展)に関する、6研究科の約60の授業科目  
→ **他研究科の授業も受講でき、単位取得可能**



# 環境学研究科ESDプログラム



## 授業科目とSDGsとの関連

### 国連「持続可能な開発目標」

(SDGs: Sustainable Development Goals)

あらゆる貧困を撲滅し、誰一人取り残すことなく持続可能な社会へ変革するための2030年にむけた17のゴール。2015年に国連が採択。



関連を示す表(右)をWebサイトで公開

[http://www.nuesd.env.nagoya-u.ac.jp/pdf/sdgs/ESD2024\\_SDGs.pdf](http://www.nuesd.env.nagoya-u.ac.jp/pdf/sdgs/ESD2024_SDGs.pdf)

2024年  
AY2024 Nagoya University ESD Consortium Program with 6 Graduate Schools  
環境学研究科 (Graduate School of Environmental Studies)

SDGs (持続可能な開発目標) との関連

授業科目	Course Title	授業形態	対象年次	学期	授業担当教員	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
環境学フィールドセミナー	Field Seminar on Environmental Studies	講義	M 1, 2	春学期	西澤 泰寿 教授 (代表)																		
生態学概論	Ecology	講義	M 1, 2	秋学期	杉谷 健一郎 教授, 徳田 憲 教授, 徳原 拓介 准教授																		
持続可能性と環境学	Sustainability and Environmental Studies	講義	M 1, 2	秋学期	シンゲンコ アナトリー 准教授, 谷川 真樹 教授, 野村 隆 准教授, 森田 俊 准教授ほか																		
資源・エネルギーの環境学	Environmental Studies on Natural Resources and Energy	講義	M 1, 2	春学期	岡野 隆夫 教授																		
持続可能な地域づくり実践セミナー	Practical Seminar on Developing Sustainable Local Communities	講義	M 1, 2	通年	岡野 隆夫 教授 (代表)																		
総合防災論1A (自然編)	Science and Technology for Disaster Mitigation 1A: Understanding Natural Hazard	講義	M 1, 2	秋学期	鈴木 誠 教授 (代表)																		
総合防災論1B (社会編)	Science and Technology for Disaster Mitigation 1B: Social Science Approaches	講義	M 1, 2	秋学期	南嶋 誠 教授, 室井 研二 准教授																		
総合防災論2 (減災編)	Science and Technology for Disaster Mitigation 2: Methodology for Disaster Mitigation	講義	M 1, 2	秋学期	西江 拓也 准教授 (代表)																		
総合防災論3A (実践編1)	Science and Technology for Disaster Mitigation 3A: Practical Actions for Disaster Mitigation (1)	講義	M 1, 2	春学期	岡田 隆 教授																		
総合防災論3B (実践編2)	Science and Technology for Disaster Mitigation 3B: Practical Actions for Disaster Mitigation (2)	講義	M 1, 2	秋学期	岡田 隆 教授																		
地質学概論	Introduction to Geology	講義	M 1	春学期	Marc Andre Humblet 准教授																		
サステナブル都市学	Low Carbon Cities Studies	講義	M 1	春学期	谷川 真樹 教授 (代表)																		
環境都市システム論	Environmental Urban Systems	講義	M 1, 2	秋学期	野村 隆 准教授																		
環境コミュニケーション	English Communication in Environmental Issues	講義	M 1, 2	春学期	野村 隆 准教授, Chun Sohyun 講師																		
環境学英語特別講義(建築・都市設計ワークショップ1)	Special Lecture on Environmental Studies (English language) Architectural and Urban Design Workshop 1	講義	M 1, 2	春学期	小松 尚 教授																		
環境学英語特別講義(建築・都市設計ワークショップ2)	Special Lecture on Environmental Studies (English language) Architectural and Urban Design Workshop 2	講義	M 1, 2	秋学期	小松 尚 教授																		
地球惑星科学概論	Introduction to Earth and Planetary Sciences	講義	M 1, 2	春学期	岡野 隆一 准教授 (代表)																		
気候化概論	Global and Urban Warnings	講義	M 1, 2	履修せず	中野 史 教授 (代表)																		
住まいと環境	Housing and Environment	講義	M 1, 2	秋学期	藤原 隆平 准教授 (代表)																		
環境政策論	Environmental Policies and Strategies	講義	M 1, 2	秋学期	三上 悠之 教授																		
環境の倫理	Environmental Ethics	講義	M 1, 2	履修せず	山本 謙司 教授																		
基礎環境学講義1	Classes and Research Instruction in Basic Environmental Studies I	演習	D 1, 2	随時	岡野 隆夫 教授, 加藤 博和 教授, 張 睿 講師																		
基礎環境学講義2	Classes and Research Instruction in Basic Environmental Studies II	演習	D 2	随時	岡野 隆夫 教授, 加藤 博和 教授, 張 睿 講師																		
臨床環境学研修1	On-site Research Training in Clinical Environmental Studies I	実習	D 1, 2	随時	加藤 博和 教授, 中野 史 准教授, 河村 則行 准教授, 岡野 隆夫 教授, 張 睿 講師, 宮坂 雅文 助教																		
臨床環境学研修2	On-site Research Training in Clinical Environmental Studies II	実習	D 2	随時	加藤 博和 教授, 中野 史 准教授, 河村 則行 准教授, 岡野 隆夫 教授, 張 睿 講師, 宮坂 雅文 助教																		
国際環境法	International Environmental Law	講義	M 1, 2	春学期	内記 真子 教授																		
環境法	Environmental Law	講義	M 1, 2	秋学期	横沢 陽子 准教授																		
環境政治	Environmental Politics	講義	M 1, 2	春学期	野村 隆 教授																		
環境政治セミナーA	Environmental Politics Seminar A	演習	M 1, 2	春学期	野村 隆 教授																		

英語開講/Classes taught in English (Depending on the request of the students)

# 環境学研究科 研究科内研究インターンシップ 参加学生募集!

環境学研究科では文工理のさまざまな研究室が多様な研究プロジェクトを行っています。  
他研究室・他専攻の研究プロジェクトを体験できるのがこのインターンシップです。

1つの分野を極めればOKという時代ではありません。異分野の研究にふれることは将来のキャリアに必ず役立ちます。

研究科内の20名あまりの教員が、自分の研究プロジェクトへの参加者を募集しています。指導教員の承認を得た上で、他研究室での研究活動を体験します。30時間の従事で共発展センター長名の履修証明書を発行します。90時間の従事で「インターンシップ」単位として認められます。ふるってご参加ください。

研究テーマの例 他にも多数あります

受け入れ教員 研究テーマ 手続き方法 →  
研究科内研究インターンシップ Web サイト



地球の変動 / 地震波速度構造の時間変化に関する研究



震災復興 / 東日本大震災後の復興プロセス



河川の生態 / 河川水生生物の採取と同定・分類:環境変動に対応した水生生物多様性評価



森林の生態 / 地中レーダーを用いた森林の根系評価



木材利用 / 木材資源の地産地消を推進する仕掛けづくり



都市計画 / 21世紀にふさわしい環境配慮型の都市・地域計画のためのフィールドサーベイ



公共交通 / 地域公共交通計画づくりに関わる現地調査やデータ集計・解析によるニーズ調査



建築環境 / 全館空調式住宅の住まい方



問い合わせ

internship@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp

# 研究科内 研究インターンシップ

- 様々な分野の研究室がある環境学研究科の他研究室の研究プロジェクトに一時参加が可能
- 所定の時間従事すれば、履修証明書や単位が得られる

※主指導教員の許可が必要

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/post.html>

「環境学研究科 インターン」  
で検索



# 持続可能な地域づくり実践セミナー（前期課程）

Practical Seminar on Developing Sustainable Local Communities and Clinical Environmental Studies  
(ALL: Japanese and English、4 credits 通年、体系理解科目)

## 今年度の内容（来年度は変更される可能性あり）

- 東京海上日動火災(株)主催で、地方創生とSDGsを推進するための人材育成事業として行っている愛知県創生研鑽会に参加
- 県内企業の若手社員と共に、行政(愛知県・名古屋市)から与えられた政策課題についてグループで調査・提言
- 事前指導、研鑽会、事後指導がある。研鑽会は名古屋東京海上日動ビル(丸の内)で、原則として火曜午後に行う

※博士(環境学)の要件<他専攻科目の単位取得が必要>に使える

# 臨床環境学プログラム（後期課程）

## Clinical Environmental Studies Program

※今年度までは「統合環境学特別コース」

「異分野の学生・教員とともに、  
環境問題について多角的に考える場」を提供

◎入学時ガイダンス後に参加を決めることができる

※博士後期課程は通常、指導教員を先に決めて受験するが、もともとから本プログラムを志望したいという方はそれが明確でない可能性があるため、**出願前に連絡**いただければ、入学後の**指導体制(分野横断型)**を相談により決めることができる

◎本プログラムの授業(**臨床環境学研修・SDGs基礎セミナー**)の単位を修得すると、**プログラム修了証(certificate)**が得られる

◎**博士(環境学)の要件** <他専攻科目の単位取得が必要>に使える

◎RA募集あり

◎環境学研究科はもちろん、**他研究科からも参加可能**

# 臨床環境学プログラムの授業（後期課程）

## Doctor course program of Basic and Clinical Environmental Studies (ALL: Japanese and English)

- On-site Research Training (ORT): **臨床環境学研修** (3 credits)

国内のフィールドにおいて、異分野の教員・学生から成るチームが、問題特定から解決策の策定までの実践的な研修を進める。

- On-campus Seminar: **SDGs基礎セミナー** (2 credits)

臨床環境学とは何か、また持続可能な開発とSDGsの基礎的内容を学ぶとともに自身の研究テーマがSDGs達成にどう貢献できるかを考える。

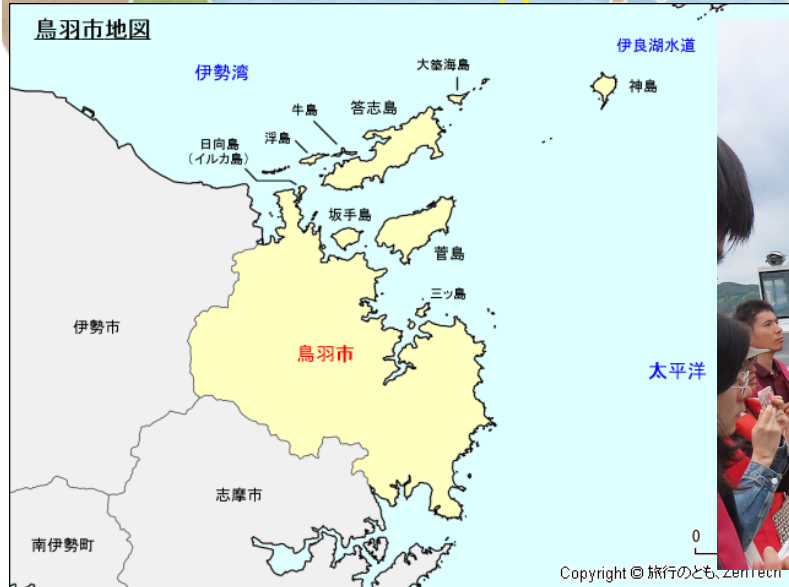




Let us begin the journey of clinical environmental studies!

# 臨床環境学研修 2023・24年度のフィールド

## 鳥羽市(三重県) ORT Field in AY2023-24: TOBA city (Mie pref.)



# ORTの標準日程 Schedule

月	行事	内容
4月下旬	立ち上げ会合	概要説明、グループ分け
5月	準備会合	各個人の興味に応じた対象地域に関する発表
6月	定例打合せ	現地見学会の準備
6～7月 (2泊)	現地見学会 (スタディツアー)	現地を訪問し調査・ヒアリング
6～12月 (毎月 1回程度)	個別調査・分析	各グループで個別に実施
	定例打合せ	各グループの進捗状況確認
12～3月 (未定)	現地報告会	地域の皆様に研究成果を見ていただくとともに議論し、今後の調査研究へつなげる
2～3月	最終報告書作成	報告書として形に残し、地域にも手渡す



# 昨年度の最終報告会（2024年2月19日開催）

## Final report conference in Toba city



日時：2月19日（月）14:00～

会場：鳥羽市役所本庁舎3階 第2.3委員会室

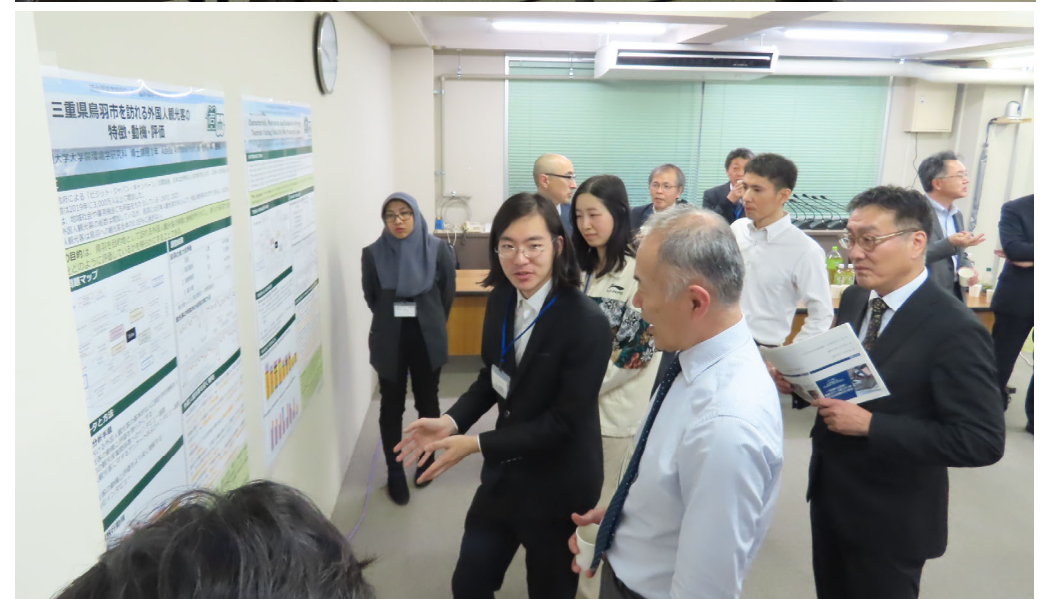
申込み・  
参加費不要

### プログラム

- |       |  |  |
|-------|--|--|
| 14:00 | 開会・開催挨拶                                      | 中村 欣一郎（鳥羽市長）<br>横山 智（名古屋大学大学院 環境学研究科長）                           |
| 14:10 | 「臨床環境学」研修（ORT：On-site Research Training）について | 宮坂 隆文（名古屋大学大学院環境学研究科 講師）   |
| 14:20 | 地域の足を確保するための新たな交通サービスの提案 ～相差町を事例に～           | 博士後期課程学生：佐藤 千江、市村 駿汰   |
| 14:40 | 三重県鳥羽市を訪れる外国人観光客の特徴・動機・評価                    | 博士後期課程学生：Adella Anfidina Putri、Hu Jiayu、Li Qingyi                |
| 15:20 | ポスターセッション                                    |  |
| 16:00 | 意見交換会  | 進行：加藤 博和（名古屋大学大学院環境学研究科 教授）<br>テーマ：住む人も訪れる人も楽しいまち「鳥羽」を目指し、何が出来るか |
| 16:55 | 閉会・閉会挨拶                                      | 高野 雅夫（名古屋大学 環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター長）                            |

司会進行：山下 博美（名古屋大学大学院環境学研究科 客員教授）

主催：名古屋大学 大学院環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター  
 協力：鳥羽市  
 問い合わせ：持続的共発展教育研究センター事務局（張）TEL: 052-747-6547





持続的共発展

検索

求む！地球と地域を救おうとする  
高い志と強い意志をもった学生

We expect the participation of students with  
high motivation and strong will. Let's tackle!

# 共に創る 持続可能な社会

途上国と先進国 自然と人間 農山漁村と都市 大学と社会



<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/>

質問・相談は、こちらへどうぞ。

If you have any questions or consultation, please contact us.

持続的共発展教育研究センター（加藤・張）

Education and Research Center for Sustainable Co-Development

(H.Kato, X.Zhang)

TEL: 052-747-6547

[cesfirm@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp](mailto:cesfirm@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp)